

## 【2用 語】

きりしたん（切支丹・吉利支丹）…キリスト教及びキリスト教徒のこと

邪宗門（じゃしゅうもん）…幕府・諸藩から信仰・布教活動が禁止された宗

教・宗派、主にキリスト教や日蓮宗不受不施派など

制禁（せいきん）…定・掟などの決まりによつて禁止すること

太政官（たじょうかん）…維新政府が慶応四年公布した「政体書」によつて設置された最高官庁

## 【2解 説】

慶応三年（一八六七）十二月九日の王政復古に際し、新政府の最高官職として総裁・議定・参与が置かれ、太政官設置の準備が進められた。続いて同四年閏四月二十一日公布の「政体書」により太政官の制度が確立した。これに先だつ同年三月十五日、太政官が民衆に暫定的に発布した五つの定（又は覚）が「五榜の掲示」（ごぼうのけいじ）である。その第一札は五倫の道の遵守、第二札は徒党・強訴・逃散の禁止、そして第三札がここに示した切支丹・邪宗門嚴禁の定（高札）である。

内容はキリスト教及び邪宗門の日蓮宗不受不施派などの禁止と密告による褒賞であり、新政府も当初は江戸幕府の統制や弾圧をそのまま継承していたことがうかがえる。ただ、この禁教政策も明治六年（一八七三）二月の高札撤廃に伴つて事実上廃止され、キリスト教の信仰は当面黙認されることになったようである。なお、高札とは支配者が衆人に禁制・掟・条目などを板札に書いて掲示したもので、村や宿場などの中心部の見やすい場所に建てられるのが通例であつた。